

令和 5 年 5 月 29 日現在

機関番号：12602

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2022

課題番号：21K21185

研究課題名（和文）介護保険施設における認知症ケアの専門性の高い職員配置の効果

研究課題名（英文）Factors associated with quality of dementia care in the long-term care setting

研究代表者

森岡 典子（Morioka, Noriko）

東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・講師（キャリアアップ）

研究者番号：70805746

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、エビデンスに基づく効果的な認知症ケアの実現に向けた基盤となる文献レビューおよびリアルワールドデータである要介護認定情報・介護レセプト等情報（介護DB）をおちいたケアの質分析のための基盤整備として、データ解析環境整備・データベース構築を行った。文献レビューでは、我が国における職員配置とエビデンスの概観を捉え、手厚い職員配置と患者・利用者アウトカムの関連については、統一した結果は得られておらず、今後さらなる研究の必要性が示唆された。今後、本研究で整備したデータベースを活用し、患者・利用者アウトカムに関連するケアのストラクチャー・プロセス要因を解明していく。

研究成果の学術的意義や社会的意義

高齢化の進展とともに認知症高齢者数が増加の一途をたどる中、人生の最期までその人らしい尊厳が尊重された医療・介護を享受できる社会の実現が喫緊の課題である。本研究では、介護保険施設は、認知症高齢者の生活を支える場として、“エビデンス”に基づく効果的な認知症ケアの実践が求められている。近年、介護保険施設等における専門多職種チームアプローチや効果的な職員配置の在り方が着目されている。本研究では、我が国における職員配置とアウトカムの関係に関する研究動向を概観し、また、リアルワールドデータである介護レセプトを用いたデータベース構築を行った。

研究成果の概要（英文）：In this study, we conducted a literature review to show the research gap in the field of evidence-based dementia care, and developed a database using the Long-term care insurance claims data. The literature review captured an overview of staffing and patient outcomes in Japan, and suggested the need for further research on the relationship between generous staffing and patient/user outcomes, as no unified results were obtained. In the future, the database developed in this study will be used to elucidate the structure-process factors of care related to patient/user outcomes.

研究分野：看護学

キーワード：看護の質 認知症 職員配置 staffing

### 1. 研究開始当初の背景

高齢化の進展とともに認知症高齢者数が増加の一途をたどる中、人生の最期までその人らしい尊厳が尊重された医療・介護を享受できる社会の実現が喫緊の課題である。とりわけ、介護保険施設は、病院と在宅の中間施設や生活の場としてその機能が期待されており、エビデンスに基づく、効果的な認知症ケアの実践が求められている。介護保険施設等における認知症ケアの質改善に関しては、専門多職種チームアプローチ、職員の専門教育、人員配置の強化、環境調整などの体制整備の重要性が提言されている。一方で、単施設での横断研究や前後比較による効果評価が多く、頑健な研究デザインによるエビデンスの不足も指摘されている。

我が国においては、認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）において、質の高い認知症ケアを担う介護人材育成のためのステップアップ型研修が全国展開され、介護報酬における認知症専門ケア加算としても推進されている。しかし、介護職員の研修受講や研修を受講した専門性の高い職員配置による効果は、単施設における事例的な報告が多く、利用者アウトカムとの関連を定量的に検証した報告は少ない。

### 2. 研究の目的

本研究では、本研究の目的は、介護保険施設における質の高い認知症ケアの提供体制の在り方を検討することを目指し、その基盤となる、①我が国における職員配置とアウトカムの関係に関する研究動向を概観し、また、②リアルワールドデータである介護レセプトを用いたデータベース構築を行うことを目的とした。

### 3. 研究の方法

(1) 我が国における職員配置とアウトカムの関係に関するスコーピングレビュー（2021年度～2022年度）(Morioka et al.,2022)

①レビュー目的：職員配置と患者・利用者アウトカムの関連について、我が国における研究動向を概観することを目的とした。

②方法：

・検索方法

検索データベースは、医中誌、PubMed、CiNiiを用いた。‘nurse and (staffing or number or deployment or ratio or rate or proportion)’, ‘quantity of nursing care’, ‘nursing system’, ‘patient and outcome’, ‘nurse sensitive outcome’, ‘nurse sensitive indicator’, ‘patient satisfaction’, ‘quality of nursing care’, ‘job satisfaction’, ‘burnout’, ‘Japan’, and ‘hospital’のキーワードを組み合わせた。

・対象文献の選定プロセス

英語もしくは日本語であること、量的研究による原著論文であること、職員配置とアウトカムの結果が示されていること、を包含基準として、タイトル・抄録によるスクリーニングの後、全文スクリーニングを行った。2名の研究者が独立して行い、不一致がある場合にはディスカッションにて合意を得た。

・データ抽出・分析

研究の目的、セッティング、対象者数、説明変数、アウトカム、調整変数、結果を抽出した。説明変数である職員配置の定義およびアウトカムを基にしたマトリクス表を作成した。

・倫理的配慮：既に公開されているデータのみを扱い、また、個人情報が含まれないため、倫理審査の対象外であった。

(2) リアルワールドデータである介護レセプトを用いたデータベース構築（2022年度）

①データの入手

厚生労働省に介護総合データベースの第三者提供申請を令和2年7月に行い、有識者会議での承認を経て、令和3年10月に入手した。

②研究計画の概要

2012年4月～2019年12月に初回要介護認定を受けて、死亡した65歳以上コホートの中で、認知症グループホームの初回入居者を対象とし、グループホームでの死亡をアウトカム、説明変数を職員配置、認知症専門ケア加算の算定とし、個人要因である性、年齢、ADL、IADL、医療の状況、認知の状態、施設要因である、口腔ケア提供体制、栄養マネジメント体制、サービス提供体制加算などを調整する。

③データベース構築

・使用したテーブル：第三者提供用データベースに含まれるテーブルのうち、要介護認定情報、給付実績情報（基本情報レコード）、給付実績情報（明細情報レコード）、事業所台帳情報（基本情報）、事業所台帳情報（サービス情報）、受給者台帳情報を用いた。

・一人一行となるよう、データ抽出し、必要な変数の作成を行った。

#### 4. 研究成果

(1) 我が国における職員配置とアウトカムに関するスコーピングレビュー (2021 年度～2022 年度)

レビューの分析対象となったのは 15 文献であった。15 文献のうち、3 文献は日本語、それ以外は英文であった (表 1)。対象者数は 14 人から 2386 人と幅が広く、6 文献は DPC データ等のビッグデータを用いた解析であった。

職員配置の測定方法は、1 勤務帯あたりの患者対看護師数、Nursing hours per patient day、看護職員対病床数、など様々であり、また、測定単位も病院全体、病棟平均、スタッフ個人の平均など様々であった。アウトカムである患者アウトカムについては、①患者アウトカム、②看護師による看護ケアの質評価、③看護師アウトカムに 3 つに分類することが出来た。

職員配置と患者アウトカムの関連については、結果が一致していない、また、検証している研究の数が多くないことが分かり、今後さらなる研究の必要性が示唆された。

(2) リアルワールドデータである介護レセプトを用いたデータベース構築 (2022 年度)

2012 年 4 月～2019 年 12 月に初回要介護認定を受けて、死亡した 65 歳以上コホートの中で、認知症グループホームの初回入居者を対象とした 20,262 人分のデータベースを構築した。今後、本研究の発展的な研究として、本データベースを用いた詳細分析を行っていく予定である。

#### <引用文献>

Morioka, N.; Okubo, S.; Moriwaki, M.; Hayashida, K. Evidence of the Association between Nurse Staffing Levels and Patient and Nurses' Outcomes in Acute Care Hospitals across Japan: A Scoping Review. *Healthcare* 2022, 10, 1052.

<https://doi.org/10.3390/healthcare10061052>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Morioka Noriko, Okubo Suguru, Moriwaki Mutsuko, Hayashida Kenshi	4. 巻 10
2. 論文標題 Evidence of the Association between Nurse Staffing Levels and Patient and Nurses' Outcomes in Acute Care Hospitals across Japan: A Scoping Review	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Healthcare	6. 最初と最後の頁 1052 ~ 1052
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/healthcare10061052	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------